

十二月十八日

今日は朝から、色々と考えたい。これから五年位のことを。キルティプール計画は今日中に目途をつけよう。暗い鳥放送は時期尚早であった。今日打ち切りの相談をして、キルティプール計画に移し変えよう。しかし、何度読み直しても十六日付の菅原からのFAXレターはすぐれモノだな。無断でここに転載してしまおう。

石山さん

さっき電話いただいた時、家にいて幸いしました。コルトレーンのCD、どうも店にないと思っておりましたら・・・いいのそっくり自宅にありました。というのは、昨年暮の30日に「エルヴィン・ジョーンズ・ジャズマシーン」のメンバー全員がうちに来てメシ喰ったんです。それで（店の）レコード持っていくの面倒なんで、コルトレーンのCD全部家に持ち帰ったのでありました。エルヴィンはじめメンバー全員が食後に本気になってこのCDを聴いたんですネ。これじゃ私、店で「ジャズ喫茶のマスター」やってるのと変らんじゃないか・・・と冗談で思ったわけです。

しかし、これらのインパルス盤のコルトレーンはいづれも最高のものばかりで「ベイシー」でもいつもこのうちのどれかがかかっております「レコード」ですけど。

「ライブ・アット・バードランド」の「アフロ・ブルー」は庄

巻。「ライブ・アット・ザ・ヴィレッジヴァンガード」のスピリチュアは美空ひばりのりんご追分けみたいにゆったりとして気分が落ち着くでしょう。

「ジョン・コルトレーン／トランジション」の「ディア・ロード」をお聴き下さい。死ぬのも怖くないという「愛」を感じる最高のバラードです。

「クレッセント」は、過激なこの頃のコルトレーンが登山の途中、ちよつと平らな場所に出たんで平たい石に腰を下ろし、片ひじついて下界を眺め、タバコにいつぶく火をつけているような（当時としては）心の平静を保った名演奏が聴けます。私の「オーディオ」の頂点はこの原盤LPレコードを最高の音で鳴らすことに他なりません。コルトレーンの音もいいですが、何といってもエルヴィン・ジョーンズの叩くトルコ製「K・ジルジャン」のシンバルの音が絶品！なのであります。

「デューク・エリントン／ジョン・コルトレーン」、これはコルトレーンがデュークと一緒にやった、たった一枚のアルバムです。さしものコルトレーンもこの日はキンチョーしたと思いますよ。

「ラブ・シュプリーム／至上の愛」、これはもう黙って身をゆだねるしかありません。「神」の領域でありますよ。

以上、コルトレーンだけ10枚、明日佐川急便にて「特急」にて送ります。

健さんが、どのアルバムの中のどの曲が気に入るかとは判りません。どれかに救いがありますよう。

菅原は人物風格とても私等の足許にも及ばぬまでに成熟したな。来春のネパール・キルティプール、カンボジア・プノンペン、ツアーワークシヨップは先ずキルティプールに入り、それからプノンペンが理想だろうか。ネパールの担当は安藤。カンボジアは松本。沖縄は太田。沖縄にジュニー、渋井さん等に来てもらうのは四月に入ってからだろう。ライター、李祖原も四月には東京に居るからそのほうが良い。年内に全てのスケジュールをFIXしたい。ホーム・ページにおおまかなスケジュールを今日出しておこう。スポンサーも用意したいなあ。今の日本ではむづかしいか。